



【郡山市：秋空とキャベツ畑】

県中農林 ニュース

ひとつ、ひとつ、実現するふくしま

第38号

令和6年11月12日

- 特集 P1～2
- 農林関係の動き P3～13
- 頑張る農林業者 P14
- お知らせ P14～15

特集

福島県農業賞受賞者をご紹介します

【企画部】

9月2日（月）に、杉妻会館（福島市）において、第65回福島県農業賞の表彰式が開催され、今年度の農業賞（農業十傑^{じっけつ}）として農業経営改善部門7件、集団活動部門（農村青年活動の部）1件、復興・創生特別賞2件が受賞しました。県中管内からは、郡山市の鈴木光一・里美^{すずきこういち さとみ}さんご夫妻、須賀川市の小沢充博^{おざわみつひろ}さんが農業経営改善部門（※）を受賞され、知事から表彰状が手渡されました。

鈴木光一・里美さんご夫妻は、露地野菜を中心に85品目、約400品種の野菜と約80品種の野菜苗を栽培し、郡山市産農作物のブランド発信に貢献しています。光一さんは2011年、安全でおいしい野菜の提供を目指す「郡山ブランド野菜協議会」を農業仲間と設立し、ブランドの品質水準維持に力を入れています。また、本県初の全国指導農業士連絡協議会会長を務めるなど担い手育成にも尽力されており、その功績が認められ、農林水産大臣賞も受賞されました。



※ 経営内容が計画的であり、生産性が高く経営の安定性・発展性が見込まれ、特に農業経営の改善が顕著である個別経営体（法人を除く）及び農業法人に贈られる賞です。

【左から鈴木光一氏・内堀知事・鈴木里美氏】

小沢充博さんは、^{うね}畝を壊さない「^{ふこうき}不耕起栽培」や環境測定など先駆的な技術を導入し、イチゴの理想的な栽培環境を追い求め、11月上旬から6月まで安定して出荷できる栽培体系を作り出しました。時期ごとに異なる味わいの完熟イチゴを売り出しており、スーパー等の一般流通は行わないことから「幻のイチゴ」とも呼ばれています。また、研修生を受け入れるなど次世代の農業育成にも積極的で、小沢さんの農業経営に憧れ、イチゴ専門家に転職する若者も現れるなど新規就農者の獲得にも尽力しておられます。

今回の受賞を機に、今後の御活躍が大いに期待されます。



【左から小沢充博氏・内堀知事】

特集

復興基盤総合整備事業 ^{きたうつし}北移地区・^{ながや}永谷地区が
県優良工事を受賞しました！

【農村整備部】

令和6年度福島県優良建設工事表彰式が9月5日（木）に行われ、北移地区（田村市）0301工事がほ場整備部門で、永谷地区（田村市）0302工事が特殊構造物部門で優良工事を受賞しました。

北移地区は、復興・再生を図るためのほ場整備工事であり、県内のほ場整備において初めてとなるICT活用工事を実施したほか、出来型や品質管理に優れた点が見出され、ほ場整備工として優秀性が評価されました。

永谷地区は、山間部にある堤体延長87mのため池工事であり、限られた作業ヤードの中で、効率よく堤体盛土材の混合作業を行うなど非常に優れた出来ばえのため池が完成し、評価されました。

今後も農業の速やかな復興・再生に寄与することが期待されます。



【施工後（北移地区 0301 工事）】



【施工後（永谷地区 0302 工事）】

もり 森林づくりタウンミーティングを開催しました

【森林林業部】

県では、森林環境の保全や福島県の豊かな森林を全ての県民で守り育て、未来へ引き継いでいくため、平成18年度から福島県森林環境税を導入しています。

このたび、県民の皆さんに森林環境税を活用したこれまでの取り組みや成果をお知らせし、ご意見などをお聞きするため、8月1日（木）に「森林づくりタウンミーティング（県中地域）」をビッグパレットふくしまにて開催しました。

最初に県森林計画課から「森林環境基金制度のあらまし」を説明し、県中農林事務所と小野町から「森林環境基金を活用した取組の成果」を報告した後、参加した26名の方々との意見交換を行いました。その中で森林環境税の用途に関する提案や、森林整備の進め方等多くの意見をいただきました。

皆さまからのご意見を参考に、福島県森林環境税のあり方について、検討を進めてまいります。



【タウンミーティングの様子】

ベトナム向け輸出梨出発式が開催されました

【農業振興普及部】

郡山市のなし産地では、平成29年度から日本なし「二十世紀」をベトナムに輸出しています。

今年度も輸出予定の梨園で、横浜植物防疫所の植物防疫官、郡山市及び当部の職員が5月に春期検査を、8月に収穫前検査を実施し、無事検査に合格した園地の日本なしを輸出することになりました。8月28日（水）にはいわき梨選果場にて、JA福島さくら主催によるベトナム向け輸出梨出発式が開催され、式典にはJA福島さくら代表理事組合長をはじめ、JA梨生産部会、郡山市、（独）日本貿易振興機構、イオン東北株式会社、県等の関係者が出席し、日本なしの出発を見送りました。



【関係機関代表者一同によるテープカット】

子どもたちに森林の大切さや木材に対する理解を深めてもらうため、9月2日（月）～13日（金）に、郡山市立行健第二小学校にて、「木とのふれあい創出事業」による木工教室を計6回開催しました。

講師に「福島県もりの案内人」のこまつ まさよし小松 雅喜さん、さなき みちお佐名木 道男さんを招き、3年生は金づち、4年生はのこぎりの使い方を学んだ後、県産スギの端材を使って実践練習を行いました。児童たちは講師の指導を受けながら、最初はぎこちない手付きでしたが、徐々に上手に使いこなせるようになり、時間を忘れる程に楽しんでいた様子でした。

【釘打ちの実習】



【工具の使い方の説明】



県産の花きを使った「はないく花育授業」を小学校2校で行いました【農業振興普及部】

県中農林事務所では福島県産花きの魅力を広く知ってもらい、利用促進を図るため、花き関係者による「県中地方フラワーネットワーク」を設立し、様々な取組を行っています。

活動の一環として、9月上旬に郡山市立ほづみ穂積小学校5・6年生と行徳小学校6年生を対象に郡山市の生花店「花ふじ」のいとうもとふみ伊藤基文社長らを講師として、県内産りんどう・トルコギキョウ・しゆくこん宿根かすみそう等を用いたフラワーアレンジメント作りを体験しました。児童達は自由な発想で花と向き合い、自分らしい素敵な作品が出来上がりました。アンケートには「またやりたい」「花に興味が出た」との感想が多く寄せられ、県産花きを身近に感じることが出来た様子でした。



【穂積小学校の花育授業風景（9/3）】



【行徳小学校の花育授業風景（9/6）】

9月3日（火）、青森県青森市で「北海道・東北地区第59回治山林道研究発表会（主催：東北・北海道地区森林土木研究会）」が開催されました。

この発表会は、治山・林道事業に携わる職員の技術力向上と森林土木技術の発展を目的として毎年開催されています。

当所からは森林林業部の長澤^{ながさわ}主査が参加し、「治山事業におけるICTの活用」と題して発表しました。工事現場におけるICT（情報通信技術）の活用方法と課題を調査研究し、最高賞となる優秀賞を受賞しました。

今後も引き続き調査研究に取り組み、技術の研鑽に努めてまいります。



【発表会の様子】

小野高等学校で実施したフレッシュ農業講座

【田村農業普及所】

県立小野高校の2年生8名に農業の魅力を知ってもらうため、9月5日（木）、9日（月）にフレッシュ農業講座を開催しました。

「スマート農業」を学びたいという要望を受け、5日に「田村地域の農業」と「スマート農業」に関する事前講義を行い、9日は、田村市都路町にある株式会社A-Plusの完全閉鎖型の植物工場の最先端のレタス栽培を見学しました。生徒は、最先端の農業に驚いた様子で、多くの質問が飛び交っていました。次に、田村市船引町にある株式会社JAアグリサポートたむらのほ場を見学し、就農希望者の研修受入先としての取組状況とトマトやイチゴのハウス栽培について説明いただきました。



【工場制御設備の説明を受ける様子】



【トマト栽培ハウスを見学する様子】

岩瀬農業高等学校で実施したフレッシュ農業講座

【須賀川農業普及所】

9月6日（金）と30日（月）に、県立岩瀬農業高等学校の生徒を対象に管内生産者及び法人の栽培技術や経営管理について学ぶフレッシュ農業講座を開催しました。

今年は花き、野菜、米の生産者及び法人を訪問し、生徒が普段学校で栽培している農作物を現場目線で見る事が出来ました。

研修では、ソーラーパネルを設置したほ場での稲刈り、太陽熱を利用した乾燥施設を見学しました。また、防除用ドローンが、ほ場の端から端まで一定の高度で移動する光景に大きな関心を寄せていました。

参加した生徒からは、高校に求人に来てほしい、就農への意欲が高まった等の感想がよせられました。



【シンテッポウユリほ場でドローン見学（9/6）】



【ソーラーパネルの下で稲刈り(9/30)】

須賀川4Hクラブで、農作物の販売を行いました！

【須賀川農業普及所】

須賀川4Hクラブは、9月7日（土）に福島県農業総合センターで開催された第17回農業総合センターまつりに参加し、各会員が丹精込めて育てた農産物の販売を行いました。

今年は入場者も多く、4Hクラブの販売会も昨年以上の大盛況となりました。消費者と直接顔を合わせて生の声を聞きながら、充実した販売活動を行うことができました。

会員の多くは、来年も参加したい意向を示し、出品物の増量を検討する方がいるなど、販売イベントへの参加意欲が高まり、須賀川4Hクラブの活動の活性化につながりました。

今後も積極的なイベントへの参加を予定しています。



【第17回農業総合センターまつりの様子】

須賀川4Hクラブとは？

須賀川・石川地区の若手農業者が中心となって活動している組織です。自身の栽培技術や農業経営を向上させるための勉強会の開催、地域イベントへの参加等の活動を行っています。

「おいしい ふくしま いただきます！」キャンペーン農林水産物 PR (第2回) を開催しました!

【企画部】

県産農林水産物の消費拡大及び地産地消を推進するため、「おいしい ふくしま いただきます！」キャンペーンを実施しました。9月14日(土)に、福島空港(玉川村)で開催された「道の駅空の駅まつり」会場で、先着400名を対象に、県産農林水産物についてのアンケートや「福島県産日本なし」のプレゼント、さるなしジャムの試食、農産物に関するパンフレットの配布を実施しました。

今回のアンケート結果では、農林水産物を購入する際に最も重視する点は「新鮮さ」が50%で最も高かったです。当事務所では引き続き県産農林水産物のPRを続けていきます。



【イベント実施状況】



【さるなしジャムの試食】

「第1回ひとつ、ひとつ、実現する郡山農業塾(病害虫防除編)」 を開催しました

【農業振興普及部】

当部では、農業担い手の確保・育成に向けた取組として、主に就農から5年以内の新規就農者を対象に、農業に関する基礎的な知識や技術を習得する研修会「郡山農業塾」を開催しています。

今年の第1回は9月18日(水)に県農業総合センターにて、センター職員から夏秋野菜の病害虫防除のポイントについての講義と、試験ほ場において研究成果などの紹介があり、受講生は熱心に聴講していました。

「郡山農業塾」は、農業の経験や就農状況を問わずどなたでも参加可能です。新たに農業を始めた方、農業を始めたい方など、多くの皆様のご参加をお待ちしております。



【きゅうりハウス内の様子】

「福島県たむら地域 農業の現地見学会」を開催しました！【田村農業普及所】

田村地域では、新規就農者の確保・定着に向けて、田村市、三春町、小野町、JA 福島さくら、当所等で「田村地域就農支援プロジェクト（以下、プロジェクト）」を組織し、関係機関一体となって支援に取り組んでいます。

プロジェクト主催で、9月27日（金）～28日（土）の一泊二日にわたり、「福島県たむら地域 農業の現地見学会」を開催しました。県内外の就農希望者計6名が管内の野菜、花き、畜産農家を訪問し、地域農業について「見て」、「知って」、「感じて」いただくことができました。参加者からは「野菜、花き、畜産とさまざまな現場を見学できてよかった」「生産者に直接話を聞いて参考になった」等の感想をいただき、好評でした。現地見学会は来年度も開催を予定しています！



【ピーマン農家の話を聞く様子】



【畜産農家の話を聞く様子】

献穀米が献納されました！

【須賀川農業普及所】

令和6年度の献穀者として選ばれた、鏡石町の^{そえたたかお}添田孝夫さんの献穀米「天のつぶ」が献納されました。

献穀とは、宮中恒例行事の中で最も重要な儀式である「^{にいなめさい}新嘗祭」に供するための新穀を、各都道府県で選ばれた精農家が献納するものです。

今年はカメムシの多発生や収穫時期の長雨など、恵まれた気象経過ではありませんでしたが、添田さんの細やかな栽培管理と技術により、見事な黄金色の田んぼからの収穫となりました。

献穀米は11月23日（土）の新嘗祭に供され、今年の収穫に感謝するとともに、来年の豊穰が願われます。



【^{ぬいぼ}抜穂祭での^{ひろた}廣田県中農林事務所長の笑顔「豊作！！」】

安積疏水通水 142 周年記念式典が開催されました

【農村整備部】

明治 15 年 10 月、国直轄の農業水利事業第 1 号として、猪苗代湖の水が安積平野を潤して以来 142 年、大事業を成し遂げた先人の知恵と偉業を讃える安積疏水通水 142 周年記念式典が、10 月 1 日（火）開成山大神宮において安積疏水土地改良区の主催により執り行われました。

安積疏水は、荒涼とした原野で水源に乏しく発展が進まなかったこの土地に、日本海へ注ぐ猪苗代湖の水を導くことで、荒野を美田に一変させました。また、水路の落差を利用した水力発電や水道用水など都市用水を供給することで、ここ郡山市が大きく発展する礎となりました。

是非一度、安積疏水の歴史に触れてみてください。



【開成山大神宮における祭事】



【上戸頭首工じょうこうしゅこう】

（郡山方面へ用水を流す水の取り入れ口）】

果樹研究所長期就農研修生が視察研修を行いました！

【須賀川農業普及所】

10 月 3 日（木）に、就農のため果樹の知識や技術を学ぶ果樹研究所の長期就農研修生が、石川町の根本常和ねもとつねかずさんの果樹園を訪れ、視察研修を行いました。

研修生は、根本氏から栽培品目や、管理上の意識、苦勞している事等の講話を受けた後、使用している資材や病虫害の防除、人手の集め方などについて積極的な質問を行っていました。研修生からは、「この視察研修で学んだことは、今後自身が就農したときに役立つ」との感想が得られました。

須賀川農業普及所は今後も新規就農者への支援を継続していきます。



【視察の様子】

10月4日（金）、町民憩いの森公園（古殿町）において、石川地方植樹祭が開催されました。

令和6年度緑化運動テーマ「ひろげよう 育てよう みどりの都市」のもと、国土緑化石川地方推進委員会、福島森林管理署白河支署、古殿町緑化推進委員会の主催により、森林づくりの意識醸成を目的に開催され、約100人が参加しました。

植樹祭は、緑化功労者の表彰や来賓祝辞等のあと、植樹会場へ移動し、代表者による記念植樹や参加者による一般植樹が行われました。

参加者一人ひとりが額に汗をにじませながら、未来に向かってすくすくと成長するようにと心を込めて、モミジ110本の苗木を植樹しました。

緑化功労者 中野長寿会（石川町）、小針竹千代さん（玉川村）、下蓬田行政区（平田村）

花火の里滝輪郷保全会（浅川町）、大久田公民館（古殿町）



【記念植樹の様子】

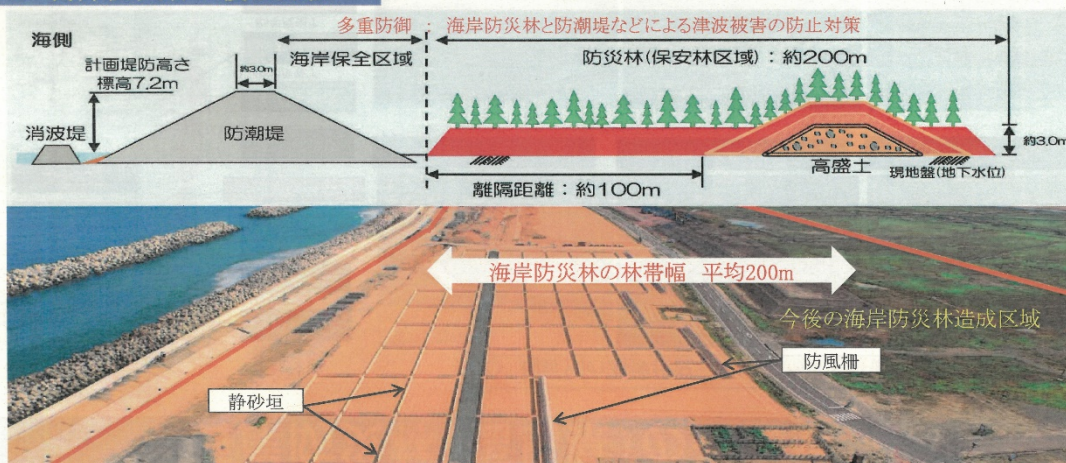


【一般植樹の様子】

平成 23 年 3 月の東日本大震災で発生した未曾有の大津波により、太平洋側の海岸防災林が壊滅的な被害を受けました。このため、本県では全国初となる津波防災対策に平成 23 年度から現在まで取り組んできました。

今回、県立岩瀬農業高校環境工学科 1 年生の皆さんに、浪江町の海岸防災林造成地と併せて、防災林に植栽されたクロマツ（松枯れに抵抗性のある品種）の苗畑を見学してもらいました。生徒たちは潮風にあたりながら、広大な防災林を目の当たりにして、林業や森林土木事業などに携わる人々の^{たゆ}まぬ努力に感心した様子でした。自然災害から私たちが安心して暮らせるよう、近い将来、生徒たちがその仕事の一翼を担うことが期待されます。

■ 海岸防災林の復旧方法



【海岸防災林の復旧方法】



【海岸防災林造成地見学】



【クロマツ苗の育苗見学】

都路町でさつまいも収穫見学会を開催しました！！

【田村農業普及所】

10月10日（木）、都路町の^{じけんじょう}地見城多目的研修集会施設と現地ほ場において、田村市によるさつまいも作付面積拡大を目的とした収穫見学会が開催されました。

集会施設での栽培講習では、栽培過程をイメージしてもらうため、普及所が作成した^{せひ}施肥から収穫までの動画を視聴していただいた後、さつまいもの特性やほ場選定の留意点等を説明しました。また、田村市やJAからは生産支援事業やさつまいも貯蔵施設について説明がありました。その後ほ場に移動し、実際に収穫を体験していただきました。生産者は10名ほどが集まり、収穫したばかりのさつまいもを観察するなど、熱心に作業状況を見学しておられました。



【栽培講習の様子】



【現地ほ場での掘り獲りの様子】

「浅川町立浅川中学校」が完成しました

【森林林業部】

10月10日（木）に浅川町の「浅川中学校」の新校舎が完成しました。

この校舎には、県産材がふんだんに使われています。その中でも、床のフローリングは県産のクリ材で、これは福島県の森林環境税を活用して導入されました。

生徒や保護者からは「木のおいがして気持ちいい」と好評です。教職員からも「木の香りで癒やされる」「とても心地よく、生徒たちはのびのびと学校生活ができています」などの声がありました。

生徒たちは、このような環境の中で学びながら、森林に関する理解を深め、さらには地域の魅力の再発見につながることを期待されます。



【フローリングは県産クリ材】



【浅川中学校校舎】

令和6年度県中農林事務所管内現地研修会を開催しました！

【企画部】

10月11日（金）に管内の現状と課題、各部所の業務に関する認識を深め、連携して課題の解決にあたるため、若手職員を中心に現地研修会を開催しました。

午前は、郡山市で県産農産物を使用してジャムを製造している「^{とうえいさんぎょう}東栄産業株式会社」で6次化商品の取組状況を工場で見学し、午後からは田村市^{おおごえ}大越町でピーマンの施設化等に取り組んでいる^{にした ひろし}新田 浩さんのほ場にて、ピーマン栽培に関するこれまでの取組や今後の展望等についてお話いただきました。最後に小野町^{うきかね}浮金地区の森林整備施行地にて、森林林業部^{さんべい}三瓶技師より震災後の現状と復興に向けた取組について説明があり、各部所で行っている業務に対して理解を深めることができました。



【研修会の様子】

県中地方特定家畜伝染病防疫演習を開催しました！

【農業振興普及部】

大陸から渡り鳥などの野鳥が飛来する秋以降の高病原性鳥インフルエンザ発生に備えるため、10月21日（月）、福島県農業総合センターにおいて「令和6年度県中地方特定家畜伝染病防疫演習」を開催し、各市町村、関係機関・団体、県関係機関等の職員約70名が参加しました。

演習では、実際の発生を想定し、発生農場での隣接テント設営から集合センターでの受付の対応、防護服の着用、発生農場での捕鳥から殺処分、消毒ポイントでの証明書発行等、手順を確認しながら作業を行い、有事の際の防疫対策を確認しました。

今回の演習を踏まえ、特定家畜伝染病の発生時に迅速かつ的確な防疫対策を展開できる体制を強化してまいります。



【発生時の対応と演習内容の研修】



【発生農場内を想定した作業演習】

頑張る農林業者さん

★ 須賀川市 にしまきな おと 西牧奈央人さん

須賀川市^{よしみね}吉美根で農業を営む西牧奈央人さんは、半促成・抑制きゅうり各 25a、水稻 2ha、とうもろこし 10a を作付しています。また、郡山市内のレストランと契約し、15 種類の西洋野菜の生産も行っていきます。

今年から「きゅうり会」（きゅうりの施設栽培を行う生産者が、勉強会や情報交換会を行うための団体）の会長に就任し、勉強会・先進地視察研修の企画などを通し、会員の技術向上や農業経営の発展を図っています。西牧さんは、きゅうり会の会員を新規就農者等の経験が浅い農業者にも拡大する意向であり、「新規できゅうりの栽培を行う生産者のサポートをしていきたい」と話してくれました。



おらせ

「ふくしま農業人フェア in 郡山」を開催します！

【農業振興普及部】

県内最大級の就農相談会「ふくしま農業人フェア in 郡山」を開催します。

○日時：令和6年12月1日（日）、12時30分～16時30分

○場所：ビッグパレットふくしま 展示ホールA（郡山市）

○専用サイト：<https://fair.start-fukuagri.jp/event/koriyama20241201/>



【←詳細はこちらから】

自営就農を目指す方、農業法人で働きたい方、「農業」や「畜産」に興味がある方は、知りたい情報が得られるチャンスです。

就農支援制度、品目、研修などの相談ができる他、就農された方の実体験や農業法人の方からお話を直接聞くことができます。また、農業を始める際に必要な農業機械の展示や各種資料を揃えています。



【昨年度開催の様子】

お知らせ

「令和6年度県中地方グリーン・ツーリズムネットワーク交流会」を開催します

【企画部】

12月4日（水）に郡山合同庁舎にて、「令和6年度県中地方グリーン・ツーリズムネットワーク交流会」を開催します。今回は「グリーン・ツーリズムへの参加者を増やすための戦略」をテーマに掲げ、情報発信の専門家による講演及びグループワークを通して、効果的な情報発信により地域を訪れる人を増やすための戦略について、見識を深めます。

グリーン・ツーリズムに関心のある方はどなたでも参加できますので、ぜひお申込みください。



【詳細はこちらから→】



開催日時 令和6年
12月4日（水）
10:00～16:30

開催会場 福島県
郡山合同庁舎
仮設庁舎 2階
第一会議室
〒963-8540
郡山市麓山1-1-1

	タイムスケジュール
10:00～10:05	開会
10:05～12:00	講演及びグループワーク 【講師】 東海大学客員教授、合同会社公共コミュニケーション研究所代表CEO 河井 孝仁(ゆづりたかよし)氏
12:00～13:00	休憩
13:00～16:25	グループワーク及び発表、講評
16:25～16:30	アンケート記入
16:30	閉会

申込み・問合せ

主催：県中地方グリーン・ツーリズムネットワーク事務局
(福島県 県中農林事務所 企画部)
住所：郡山市麓山1-1-1 TEL:024-935-1510
FAX:024-935-1314 email:kikaku.af02@pref.fukushima.lg.jp

お問い合わせはこちら

【編集・発行】

福島県県中農林事務所 企画部 地域農林企画課

〒963-8540

郡山市麓山一丁目1番1号

ホームページ <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36220a>

TEL 024-935-1510 FAX 024-935-1314